

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：22501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00745

研究課題名（和文）保健医療系ESP英語多読プログラムの構築と検証

研究課題名（英文）Developing an Extensive Reading Program in English for Specific Purposes for Health Care University Students

研究代表者

神田 みなみ（Kanda, Minami）

千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授

研究者番号：20327125

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は保健医療系の（1）英語多読用図書・教材の開拓と選定を継続しながら、（2）保健医療系学生向けの英語多読用図書の分析を行うものであった。（1）に関して、ノンフィクションの英語図書は英語圏の児童向けの比較的容易に読める初期のレベルは増加しており、大学生英語の授業には取り入れ易いものであった。（2）に関して、授業での導入も並行して行い、結果からも学生の反応からも、保健医療系の英語多読用図書に対する困難は(a) 専門的語彙、(b) 理系トピックに関する基礎知識、(c) 英文の長さが主要因であることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護・栄養・歯科衛生・リハビリテーション等の保健医療専門職には、国内外の最新情報を得るとともに急速に国際化する医療現場に対応できる英語力が求められている。専門英語教育と英語多読を結びつけた授業実践は少なく、多読により幅広い語彙を獲得して実用的な英語力を向上することが期待される。また、保健医療分野の多読の導入には、適切な英語多読用図書の開拓が重要である。大学英語教育現場で普及している英語多読用図書は一般英語学習者向けが多い。本研究では保健医療英語教育向けの英語多読用図書の開拓を行う点に実践上の意義がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to (1) explore and select research English books and materials for healthcare Japanese university students, and (2) analyze English books for extensive reading targeted at healthcare majors. Regarding (1), there has been an increase in non-fiction English books at an initial level that are relatively easy to read for children in English-speaking countries, making them easier to incorporate into university English classes in Japan. Regarding (2), the introduction of these books in extensive reading English classes was carried out in parallel, and both the results and student feedback indicated that the main difficulties with English books for healthcare students were (a) specialized vocabulary, (b) basic knowledge of scientific topics, and (c) the length of the texts.

研究分野：第二言語習得、英語教育

キーワード：英語多読 リーディング 保健医療 ESP ノンフィクション ヘルスリテラシー グレイデッド・リーダー 専門英語

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

英語多読は大量のインプットを目指す効果的な教授法・学習方法として、多くの大学で実施されている。しかし、教養課程や共通科目の一般英語での導入が主で、専門分野で英語を使えるレベルをめざす多読の実践例は少ない。専門英語教育と英語多読を結びつけた授業実践は新しい試みである。

研究代表者は看護・栄養・歯科衛生・リハビリテーション等の保健医療専門分野の大学生に英語を指導する立場にある。将来の保健医療専門職には、国内外の最新情報を得るとともに急速に国際化する医療現場に対応できる英語力が求められている。従って保健医療系専門英語教育においても多読により高度なレベルの英語力をめざすことが期待される。

2. 研究の目的

本研究は、より専門分野に特化した高度な英語力向上をめざして、特定の目的のための英語教育 (ESP)への英語多読導入を試みるものである。特に、グローバル人材の育成が急がれる保健医療系専攻の大学生を対象とし、

(1) 保健医療系の英語多読用図書・教材の開拓と選定、

(2) 英語多読用図書・教材の専門語彙の分析、

(3) 英語多読用図書・教材を用いた専門英語多読授業の検証、

により、保健医療系 ESP 英語教育の効果的英語多読プログラムの構築と検証を行うことを当初の目的とした。

ただし、2020年コロナ禍により、英語授業が完全に遠隔授業となり、研究計画を大きく変えることとなった。具体的にはオンライン多読教材の授業導入およびスマートフォンやオンライン学習用プラットフォームを活用したオンライン多読授業の実践であり、(1)と(3)を同時に進めることとした。保健医療系の英語多読用図書・教材の開拓と選定については、紙の印刷図書の他、オンライン・ライブラリーやWEB上の英語サイトなども保健医療系の英語多読教材として利用を含めた。

3. 研究の方法

(1) 保健医療系の英語多読用図書・教材の開拓と選定

保健医療系に関連する健康・医療・人体・疾患などに関連する図書シリーズを開拓し、授業に導入した。定性的分析として、学生の読書の様子を観察するとともに、学生の感想・意見、振り返りを記録させて、アクション・リサーチとして改良・変化を加えながら検証を継続し、さらに新たな英語多読用図書・教材の開拓と選定につなげることとした。この研究成果により、ノンフィクション系多読用図書を用いた効果的な専門英語多読プログラムの構築および導入方法についての示唆を得ることが期待される。

(2) 保健医療系大学1年生のオンデマンド式オンライン英語多読授業

従来の研究より、多読導入期には易しい英語で書きおろした英語学習者向けの段階別読み物(グレーデッドリーダー)が読みの流畅さを獲得するためには効果的であり、結果的に多読量の増加につながる事が報告されている。ノンフィクション英語図書は日本人学生が困難に感じることが多く、より読むのに時間がかかり多読を断念したり、多読が進まなかったりする。

多読導入時の1年前期授業において、学生が適宜都合のよい時間帯にアップされた授業教材で学習するオンデマンド方式のオンライン授業と実施し、健康・医療・人体がテーマの図書を一部取り入れた。各学生が選択した図書のタイプを分析して、どのように多読量(読了語数)につながるかを分析した。

(3) 健康関連のウェブサイトを活用した英語多読授業

コロナ禍において学生が本を利用できなくなり、オンライン・ライブラリーの他、保健医療分野の英語情報を「ヘルス・リテラシー(Health Literacy)」を身につける目的で開拓し、授業で活用した。

未知の新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの教育現場はオンライン遠隔授業を導入することとなった。パンデミック非常事態の中、最新の医療的見地に基いた情報の選別、取得とそれに伴う行動変容が求められることとなった。本研究の「保健医療分野」に加えて、健康に関する情報を得て、正しく理解し、自ら実行する能力である「ヘルス・リテラシー」という視点で英語多読用図書の開拓を行った。

4. 研究成果

(1) 保健医療系英語図書に学生が感じる困難と多読授業への導入への示唆

保健医療系の英語多読用図書の導入については、まず通常の英語学習者向け GR のライブラリーに加えて、英語母語話者児童向け LL のライブラリーを並行して用いた。3ヶ月15回の授業で初回5回は多読導入の基礎レベルとして、6回以降にノンフィクションとフィクション系読み物を並行して使用し、徐々に保健医療系の英語多読用図書を利用した。

学生の読書記録により、どの時点で困難を感じるかをモニターした。保健医療系の英語多読用図書に対する困難は

- (a) 専門的語彙、
- (b) 保健医療トピックに関する基礎知識、
- (c) 英文の長さ、

が主要因であり、特に楽しく読めるフィクションの読み物とは異なり、一度読んだだけでは理解がしにくいとの訴えがあった。フィクションとは異なる読み方、そして目的を持って繰り返し読む仕組み（授業アクティビティなど）を作ることが重要と思われた。

英語多読授業では困難さをなるべく感じずに英語多読を続けるために翌年度も継続しており、(a)(b)については複数回の通読、また関連分野の図書を続けて読む工夫が効果的であった。保健医療系分野に関連したノンフィクション英語図書を続けると、読みのスムーズさが失われる傾向があり、(c)の困難を克服するためにも、一度読めば内容が理解できる物語・フィクション系の図書を保健医療系の英語図書と同時に読むことが、困難さをなるべく感じずに英語多読を続けることに役立った。

ノンフィクションの英語図書は英語圏の児童向けの比較的容易に読める初期のレベルは増加しており、大学生英語の授業には取り入れ易いものであった。A True Book, Rookie-Read-About, Cambridge Young Readers, Building Blocks of Science, My Health シリーズなど総語数が数百語から2500語程度の本である。ただし、さらにレベルを上げると英語母語話者の高校レベルの高い難度となる傾向があり、実際の授業での利用は無理であった。

(2) 多読導入期の Graded Readers と科学ものリーダーの組み合わせの効果

実践授業でのアクション・リサーチとして、保健医療分野を専門とする大学1年生に Microsoft Teams を用いた遠隔オンデマンド方式の多読導入授業を実施した。オンライン・ライブラリー Scholastic Literacy Pro (LR)により英語話者児童向けの英語科学図書シリーズ(A True Book, Rookie-Read-About シリーズなど)を読み、Maruzen eBook Library により物語系の英語学習者向けのグレイデッドリーダー(Foundations Reading Library, Macmillan Readers シリーズなど)を読むこととした。

オンライン授業であったが1日10分多読を推奨、結果として例年の半期授業の平均語数に匹敵する量を学生たちは読むことが出来た。15週で平均140冊(範囲45~200冊)、約11万語(範囲4.7万語~30万語)を読了した。学生の読書傾向として、多く読んだ学生はグレイデッドリーダーと科学・健康・人体などがテーマの英語ノンフィクション図書の両方を毎週読んでいた。英語ノンフィクション図書を推奨したことにより、グレイデッドリーダーのみを主に読む学生はいなかったが、ノンフィクション図書のみを主に読んだ学生は読了語数、冊数ともに少ない傾向があった。英語多読は読了語数で集計する読書量が多いことが英語力向上等の成果を上げるには必須である。英語指導の上では、ストーリーを楽しむ読書と知識を得るノンフィクションの読書を組み合わせることが学生の読書意欲を高めて維持できるなど効果的であると示唆された。

コロナ禍により図らずも全面オンライン授業となり、利用したオンライン・ライブラリーであったが朗読音声を聞けること、読める本の種類が豊富なことは利点であった。ただ読了語数は通常の対面授業並みであり、本の種類の多さが読了語数増にはつなげているとは言えず、学生への本の推奨の仕方など授業上の工夫は必要であろう。

(3) 英語によるヘルス・リテラシー向上を目的とした健康情報サイト

英語圏の国々では、国民の「ヘルス・リテラシー」向上に加えて、移民の増加や教育格差等による受け手の英語力の低下が顕著であり、日本の厚労省にあたる公的組織が非常に易しく分かりやすい英語で健康や病気に関する情報を発信している。これらは直接日本の保健医療系大学生にも役立つ、かつ易しい英語による大量のインプットをめざす英語多読授業にも適していた。

インターネット上のホームページ、専門サイトとして、アメリカ疾病予防管理センター(CDC)、英国・国民健康サービス(NHS)、カナダ・Health Canada などは大学生にとって読みやすい英語による最新の健康・医療情報源であり、英語多読授業で活用しやすいものであった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 神田みなみ	4. 巻 589
2. 論文標題 英語多読授業でノンフィクションも読みませんか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新英語教育	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 神田みなみ
2. 発表標題 保健医療系大学1年生のオンデマンド式オンライン英語多読授業
3. 学会等名 日本多読学会 2021年度年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神田みなみ
2. 発表標題 オンライン英語多読授業とヘルス・リテラシー
3. 学会等名 国際異文化学会 第22回年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Minami Kanda
2. 発表標題 Utility of smartphones as learning and assessment tools in EFL class
3. 学会等名 JALTCALL2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minami Kanda
2. 発表標題 Utilizing Extensive Reading Materials for Healthcare Majors
3. 学会等名 The 5th World Congress on Extensive Reading (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神田みなみ
2. 発表標題 ノンフィクションの英語多読 - 専門英語(ESP)教育に向けて
3. 学会等名 国際異文化学会第20回年次大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Shawn Loewen、佐野 富士子、齋藤 英敏、長崎 睦子、小林 めぐみ、金子 朝子、石塚 美佳、神田 みなみ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 352
3. 書名 学びの場での第二言語習得論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------